

Q3 武庫川で更なる治水対策は必要か？

A3 武庫川の河川整備基本方針の計画規模は、地域特性、人口、資産を考慮して、計画規模を100年に1回起こり得る可能性のある洪水を対象としています。そしてこの計画規模に相当する“流出抑制を講じない場合の洪水のピーク流量”は表1に示すとおりです。表2はこの流量を各対策で分担し、現況に対してどれだけ流量が不足しているかを示したものです。この表や図を見てわかるように、武庫川では、今後更なる治水対策の推進が必要です。

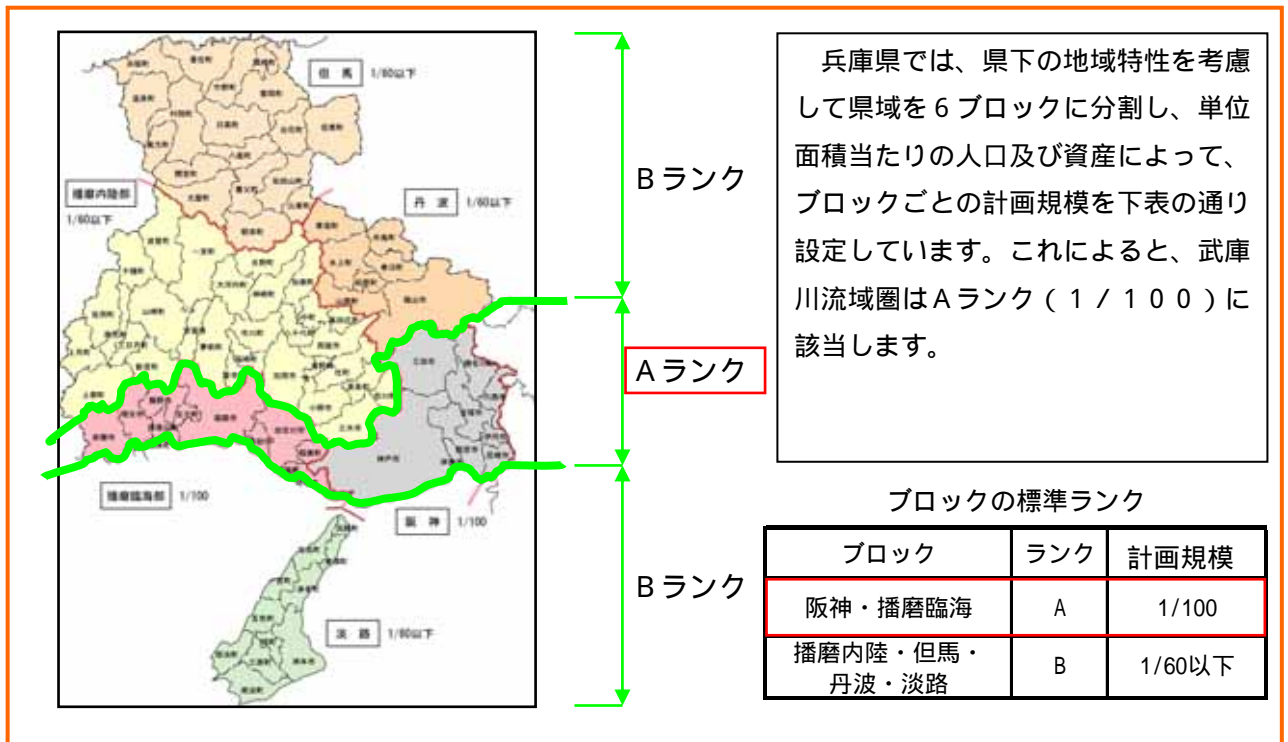


図1 ブロックの標準ランク

兵庫県では、想定氾濫区域内の人口と資産によって、計画規模を下表のとおり設定しています。武庫川流域圏はaランク（計画規模1/100）に該当します。

ランク	a	b	c	d	武庫川
人口 (人)	20,000 以上	20,000 ～10,000	10,000 ～1,000	1,000 未満	約60万人
資産 (億円)	5,000 以上	5,000 ～2,000	2,000 ～100	100 未満	約6.7兆円
計画規模	1/100	1/100 ～1/80	1/80 ～1/50	1/50 ～1/30	1/100

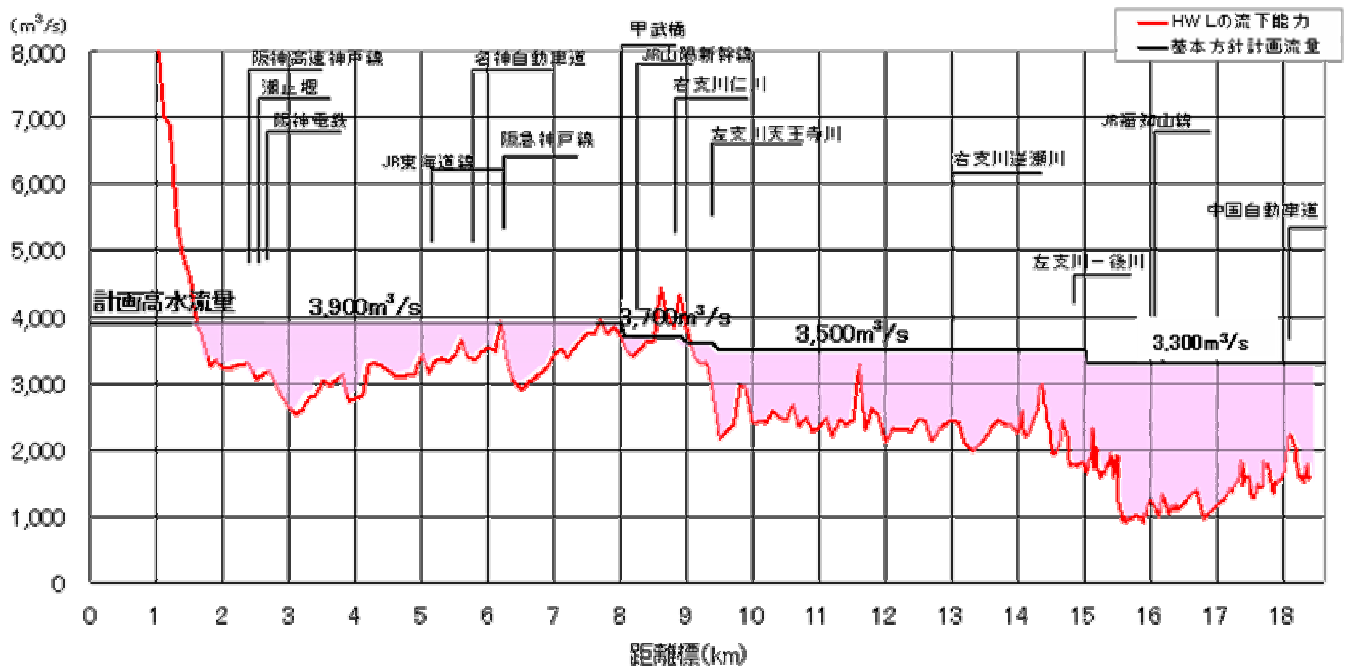
図2 河川毎の想定氾濫区域内人口および資産による標準ランク

表1 流出抑制対策を講じない場合の洪水のピーク流量算定条件

計画規模	計画降雨量	計画降雨パターン	洪水のピーク流量
1/100 (甲武橋地点)	247mm / 24時間	平成16年10月型の モデル降雨	4,690m ³ /s (流出抑制対策を講じない 場合の洪水のピーク流量)

表2 基本高水のピーク流量の配分と今後確保が必要な流量

	基本高水の ピーク流量	洪水調節施設に よる調節流量	河道への配分流量 (計画高水流量)	(参考) 流域対策による 流出抑制量
基本方針(案)	4,610m ³ /s	910m ³ /s	3,700m ³ /s	80m ³ /s
現況施設の評価		260m ³ /s	図3の赤ライン	0m ³ /s
今後確保が 必要な流量		650m ³ /s	図3の赤着色	80m ³ /s



現況流下能力の算定に使用している横断面はH12～H15に測量した横断面である。

図3 現況流下能力と計画高水流量